

第8回エネルギー情勢懇談会提出メモ

白石 隆

本日の会合には、残念ながら、出席できません。しかし、情勢懇の議論も終盤に入っていることに鑑み、以下、考えるところを数点、申し述べます。

(1) 情勢懇は、報告書のとりまとめにあたって、日本のエネルギー・システムの現状にとられず、2050年にこうなっていれば素晴らしいと考えるシステムをまず提示し、ついで、そこに至るには何をすべきかを提案すべきである。その際、システムとしてめざすべきは、safe (安全)、stable (安定)、sustainable (持続的)、efficient (効率的)、internationally competitive (国際的に競争力のある) システムと考える。このうち、safe, stable, sustainable, efficient は S + 3 E とかなり共通するが、stable は grid の安定性等も含む、energy security より広い概念と捉える必要がある。

(2) こうしたシステムを構築するにあたっては、さまざまな選択肢を柔軟に組み合わせることが重要であり、再エネをもっぱら重視するなど、エネルギー源の組み合わせを固定的に考えることは避けるべきである。その鍵は技術革新にある。国は長期的観点から、再エネ、化石エネルギー、原子力、それぞれの長所を伸ばすかたちで技術革新に資源を投入すべきである。

(3) 資源投入にあたっては、専門的知見に基づき、検証可能なかたちで目標を設定し、目標達成を定量的に検証して、これを予算配分にフィードバックする、こういう一連のプロセスの構築する必要がある。また、プロジェクトの組成にあたっては、内外無差別で目標達成に資するメンバーを選ぶべきである。これを考える上で、EIA と ARPA-E の組み合わせは大いに参考になる。日本エネルギー経済研究所の拡充、ARPA-E よりも一桁大きい規模の技術開発投入を考えるべきである。